

子どものつぶやきは、感動の心

茶座 伊都子（幼児理解）

はじめに

なにげない子どものつぶやきは「はっ!」とするものがある。子どものつぶやきは、子どもの驚きや発見など「感動の心」の動きでもある。

日々子どもといっしょにいる中で、たくさんつぶやきが飛び交っているが、なにげなく聞き流してしまいがちだった。そこで、「子どものことばに耳を傾ける」を保育研究のテーマとし、「子どものつぶやきを拾い出す」ことで子どもの心を探り、保育に生かせないかと考えた。その手立てとして、今までも心がけていたことをさらに見直し、子どもと接するようにした。

- ・よい絵本・紙芝居などより多く与える。
- ・よい童話・音楽などに親しませる。
- ・あそびを通して言葉がけを多くする。
- ・身近な素材から何かを描き出し、何かを創り出しながら、楽しい会話を育てる。
- ・子どもへの接し方、態度に留意する。
- ・とくに言葉がけを大事にする。

など、今までも心がけていたことをさらに見直し、子どもと接するようにしていった。

実践例1

<3歳児のつぶやき>

～春～

①急に子どもが泣き出した

教師「どうしたの？」

子 「なきたくなかったの。」

*入園して間もない頃。お母さんが恋しくなったのかな。

②さくらの花が散っていくのを見て

子 「あ～あ、かわいそう。」

③空をながめ

子 「くも おこっとるみたい。」

子 「もうすぐ ゴロゴロくるよ。」

～夏～

①給食でのこと

教師「今日は、このグループで食べよう。」

子 「わーいきょうはめがみえるね。」

*子どもは目を見ていることで安心し、親近感もち、うれしいのだろう。

②ままごとごっこをしているとき

教師「お母さん、早くご飯たべたいな。」

子 「とりあえず、ゆうちゃんにえほんよんどってあげて。」

*むつかしい言葉を知っている。お家でお母さんによく言われているのでしょう。

～秋～

①風が心地よくそよそよと吹いてきたとき

子 「もうすずしくなったで、あせとんでつたなあ。」

②快晴の空をみて

子 「きもちいいねえ」

子 「くも おうちにかえったもんね。」

～冬～

①シュークリームを食べているとき

子 「せんせい、あなあいとる。」

教師「本当や、ちょっとのぞいてごらん。」

子 「あっ、ほんとや。みえる。こびとさんがみえる。」

子 「せんせい、おいしい。ほっぺおちそう。」

教師「よかったね。」

子 「こびとさんのおうち、こわれちゃったよ。」

子 「かわいそうだね。」

教師 「そうやね。どうしよう？食べるのやめようか。」

子 「うん。」

子 「だいじょうぶだって、これシュークリームだもん。」

*夢の世界のお話から、急に現実的になってしまった。

②朝の自由遊びのときTが外でころんだ。それをのぞきこんでみていたHくん

H 「いたい？」

T 無言でたちあがる。

H 「おっとこやなあ。」感心した様子。

T・H 「なくのは、おんなやもんなあ。」

二人顔を見合わせる。

【考察】

子ども同士の話聞いていたり、いっしょに話をしたり遊んでいると、大人が想像しないような発想をし、子どもは正直であり、素敵である。子どもとの会話を大切に、一人ひとりの心に触れ、理解に努めていきたい。

実践例2

<4歳児のつぶやき>

①遠足が延期になった、その前日

子 「てるてるぼうずつくらんと、もしかしてあめふるかもしれんよ。」

子 「そうや、だってこのまえつくらんかったもんね。そんで、あめふったんやよ。」

子 「うたうのもわすれんようにしんと」

教師 「じゃあ、てるてるぼうず作って、歌もうたおうね。」

子 「さんせい！」

*雨で延期になった遠足。今度こそ行きたい気持ちがいっぱい。

②バスの中で

A 「おとうさんとおかあさんとどっちがや

さしい？」

B 「おとうさん」

C 「でも、じいちゃんやばあちゃんのほうがもっとやさしいわ。」

A 「そうや、だって まご はかわいいで！」

③給食のときに

A 「ほく にんじんきらいやもん！」

B 「うさぎどしなんやで にんじんたべな。」

④がらくたのとりあっこ

Y 「ほくがさいしょにみつけたんやで、はなせ。」

A 「ほくのやよ。」

それを見ていたT子は、同じものをさがしてさしだす。

T 「はいはい、もうけんかせんでもいいよ。もうひとつあったよ。」

*先生のように振舞うT子である。

⑤兄弟けんか

子 「Tちゃん きらい。」

子 「でも、ゆるしたる。だいじやもん。」

⑥かるたとり

グループでかるた取りをしていると残りが4枚になったのを見て

子 「ねえ、みんなでいちまいずつとろうよ。そうしたらみんなとれるで。」

*全員が一枚はとれるようにとの配慮。

⑦ありさん

子 「ありさん、なかよしやね。」

子 「とりあいしんと、はこんどるもん。」

【考察】

子どものつぶやきを集めながら、子どもの感性のすばらしさ、かわいらしさに感動した。そして、その言葉の中に自分の気持ちをいっぱいつめて、精いっぱい表現しようとしていることが窺える。子どもからの話しかけに耳を傾けな

がら、つぶやきを聞き逃さないよう、心がけていきたい。

実践例3

<5歳児のつぶやき>

①みきちゃんのお母さん

T 「みきちゃんのおかあさんやさしそうでいいね。」

子 「そんなことないよ。おかあさんとおとうさん、いえではけんかするよ。でも、おばあちゃんちにいくと、おかあさんはおとうさんにやさしいよ。」

②ハゲの話

子 「あめにぬれるとハゲになるんやよ」

T 「おじいさんのハゲもそうかな？」

子 「ぼくハゲなったことないからわからん！」

③図書の本を返すとき

T 「どうだった。おもしろかった？」

子 「わからん。ぼくじきらいやで、えだけみたもん。」

④飛行機雲をみて

子 「あ ひこうきくもだ！」

子 「ポコポコして、きもちよさそう。」

子 「あのくものうえをあるきたいね。」

⑤草取りをされていて

子 「このくさ、とりやすいねえ。」

子 「あめ ふったでやよ。」

子 「あめふるとくさもとれるし、はなもさくし・・・」

⑥卒園式間近のこと

子 「もうすぐぞつえんでさみしいなあ」

子 「〇〇くんとは、はなれたくないな」

子 「ずっと、このままやといいのにね」

*カレンダーを見ながら、卒園を楽しみにしながらも、友だちとの別れを寂しく思っている。

⑦思い出

子たち「せんせい、ぼくたち、いまおもいでつくっているんやよ。がっこうにいても、わすれんようにようちえん、えにかいているんやよ。」

T 「わー、がんばってかいてね。」

子たち「うん！」

その後「あ、なまえもかこう。せんせいのあと、ゆうぐもかこう。」

*いつまでも忘れないでね。

【考察】

子どものつぶやきには、それぞれの子どもの成長を感じることができる。つぶやきの中には、驚きのあるものや笑いの出るもの、歌声の含まれるものなどもあった。自分の感じた事や思いを素直に表現している。日頃から子どもと子どもが話しているところをのぞいたり、子どもからの語りかけに耳を傾けることの大切さを感じた。

まとめ

「ことばは心なり」つぶやきもまた子どもの心であり、本音である。子どもたちの心の叫びがあつて感動となる。つぶやきを集めることで、次のような成果を得ることが出来た。

- ・子どもの本音に触れることが出来た。
- ・ことばの発達を知る手がかりとなった。
- ・生活の一面を知る手がかりとなった。
- ・その子独特の表現・表情に接することができ、心の交流が出来た。
- ・子どもの空想の世界を知ることが出来た。
- ・「はっ」と胸打つものがあつて、心洗われる思いがした。

保育には、経験や技術も必要であるが、保育者の表情・情熱が大切である。そして、子どもの本音を聞く耳をもち、いっしょになって楽しく遊べる保育者が、よき子ども理解者となる。子どものつぶやきや動きに心をとめることにより、子どもの感情に気づき、子ども理解が一層深まっていく。

保育者は、子ども達との会話を大切にし、子どもの心に触れることによって、子どもの言葉

や行動の底にある気持ちを見ようと心がけ、一人ひとりの子どもの理解へとつなげていきたい。

参考文献

・東海第一幼稚園研究保育資料